



公共施設の整備や扶助費、人件費の増加に加え、物価高騰の影響を受け、今後多くの歳出の増加要因が見込まれます。このような状況下において、中長期的な財政状況を考慮したうえで、選択と集中を強く意識し、事業をやめることにも勇気をもって取組みます。収入を正確にはかり、それに見合う支出を行うといった財政の基本原則を遵守することが重要だと考えています。

問
歳出が過去最大規模となるがどのように考えているか教えてください。

令和6年度の予算概要

中村和也
(市民ネット)




基本構想を策定するうえで、アンケートやワークショップなど、市民の皆様からご意見を伺いながら、スポーツ以外にも使える施設への複合化や集約化の必要性などについても検討していきます。

問
新総合体育館の基本構想策定の進め方を教えてください。

「はたらく親を応援するまちへのチャレンジ」は、市民の皆様と共に挑む新たなチャレンジ項目で、子育て支援策です。半田市を魅力あふれる都市とするために、教育先端都市へのチャレンジとともに必要な施策であり、相互に関連する重要な取組みと考えています。

問
「はたらく親を応援するまちへのチャレンジ」についての考え方を教えてください。

市民と共に挑む新たなチャレンジ

倒壊の危険性が高い特定空家は現在まで14軒を認定し、指導・勧告を行い6軒が解消しました。経済的な理由や所有者が特定できない等の理由により、8軒が対応困難な

問
空家の現状と今後の対応について考えを教えてください。

避難経路の管理は市民一人ひとりがあらかじめ確認するように啓発しており、市としては、管理はしていません。危険の連絡があった場合は関係各課と連携して対応していきます。

問
災害時の避難経路が安全に確保されているかの管理状況と、危険が発覚した場合の対応について教えてください。

大規模災害に備えた安心・安全に暮らせるまちづくり

田中高久
(創造みらい半田)




問
危険性の高いブロック塀等の補助金制度の見直しや今後の対応について教えてください。

状況にあります。今後も特定空家の解消に努めていきます。



ブロック塀等撤去費補助金の令和4年度の申請件数は23件ありました。塀が高くなるほど自己負担額が増えること等の声があることから、実態調査から行っていきます。危険性のある塀については勧告・命令など権限の規定があるため、空家法のような仕組みは考えていませんが、所有者へ粘り強く説明を行い危険なもの撤去が進むように努めていきます。

問
大規模地震発生後に水道が断水した場合、市内全域への給水はどう行いますか。

生命を守る「水」の対策

鈴木幸彦
(創造みらい半田)




問
地震に強いと言われる耐震管の整備を進めています。半田市の現状はどのようになっていますか。

県下でも早く取組んでおり、全国平均41.2%に対し半田市は86.9%で県内でも上位の整備率です。

避難所へは3日から10日以内、各家庭へは被害状況にもよりますが、仮設水道も含め1か月以内には通水させます。

問
避難所や各家庭への通水は何日後と考えていますか。

配水管破損による漏水など2次被害を防ぐため、震度5強以上で自動的に配水を停止します。ただし49か所の避難所、応急救護所、透析医療機関は安全確認後直ちに給水を開始します。各家庭への給水は、点検後被害状況の少ない地域から順次通水していきます。

問
近年の異常気象に対応する雨水整備計画はどのようですか。

5年に一度の最大降水量から10年に一度の最大降水量に想定を変更しています。また、国からの指示に沿って降雨強度1割増の設定で浸水状況のシミュレーションを行いました。既存のハザードマップに加え、より現状に沿った「浸水想定区域図」を令和7年度までに作成し、公表する準備をしています。

